

# 日本カリキュラム学会

## 第33回大会 公開シンポジウム

2022年7月9日（土）15時30分～17時30分

### テーマ

## 教育の目的とカリキュラムの編成原理

### 趣旨

社会的分業、科学主義、資本主義によって成り立ってきた近代が新たな局面を迎えつつある。グローバル化は近代の消失点となり、PISA型コンピテンシーの能力観と新自由主義がカリキュラム編成の原理となって多くの国の教育改革が行われた。その対応に追われた20年を振り返り、見落とされてきた視点とはどのようなものだったのか。私たちにはどのような選択肢があるのか。次に来る新しい時代の社会と教育のイメージを描きながら、日本の教育の目的とは何か、カリキュラムの編成原理とは何か、今一度これらの根源的な問題を改めて問い直したい。カリキュラムの編成原理を問うことは、教育目的とその根底をなす価値観や思考法、知識のあり方、知識伝達の方法をも考え直すことにつながる。

「改革は復古の形を取ってやってくる」ことは古今の歴史から私たちが学んできたことである。そして、「革新（イノベーション）は既存のもの新たな組み合わせから生まれる」ことは経済のみならず、思想や芸術など多様な分野に共通して見られる現象である。改革における「復古」は決して古いものの「再現」ではなく、私たちが持っている「既存のもの」を思い起こさせ、新たな価値づけを行って現状の突破口となり創造を助けるものである。

本シンポジウムでは、登壇者として江戸時代の思想と学びの研究者であり教育史がご専門の辻本雅史氏と、本学会の創設に関わり、カリキュラムを学問分野として整えるとともに長年カリキュラムの編成に関わってこられた安彦忠彦氏をお迎えし、江戸時代の思想、価値観、学びを通して、「〈近代の知〉を再生産してきた学校教育の知」とその伝達方法・メディア、それらの変遷と社会的背景を再考し、カリキュラム編成の精査につなげることで、次の時代のカリキュラムの編成原理をフロアとともに考えたい。

**開催方法** : Zoom

**登壇者** :

- 歴史学の視点からー近代学校を超えてー  
辻本 雅史（中部大学フェロー・京都大学名誉教授）
- 来たるべき時代の教育目的とカリキュラムの編成原理  
安彦 忠彦（名古屋大学名誉教授）

**コーディネーター・司会** :

渡邊 雅子（名古屋大学） 生澤 繁樹（名古屋大学）

**参加費** 無料（学会員でない方もご参加いただけます）

**申込先** <https://forms.gle/AfXKhEcNP1tEjejP8>



**問合せ** [jscs33nagoya@educa.nagoya-u.ac.jp](mailto:jscs33nagoya@educa.nagoya-u.ac.jp)